

学校サポートチームによる 健全育成の推進について

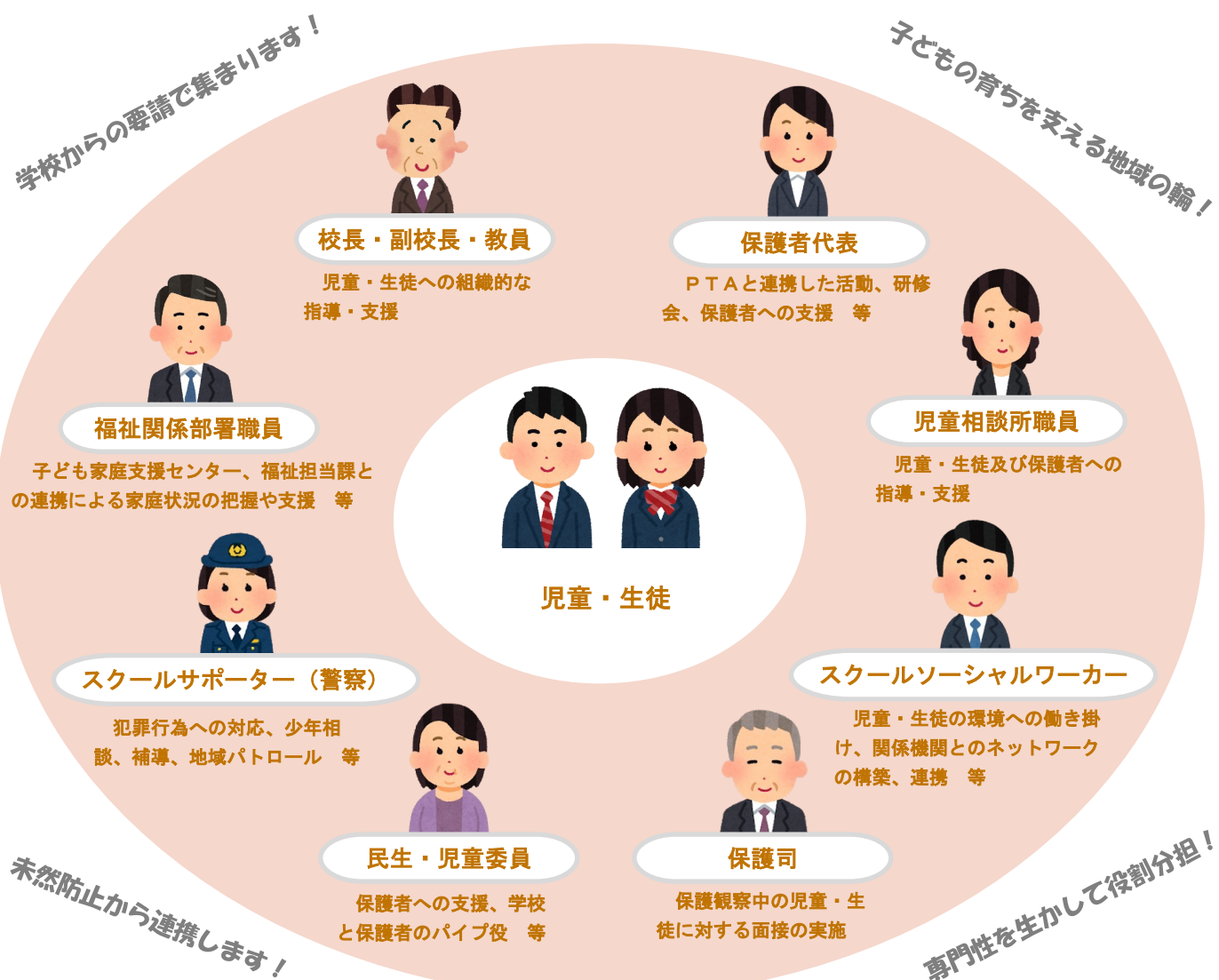
児童・生徒の問題行動等が複雑化・多様化し、学校だけでは解決できない事例は少なくありません。各学校が「学校サポートチーム」を活用して、組織的な対応を行うことが問題行動等の未然防止、早期解決につながります。

学校サポートチームは全公立学校に設置されています

◆ 学校サポートチームとは・・・

児童・生徒の問題行動等の未然防止、早期解決を図るため、学校、家庭、地域、関係機関が一体となって取り組む、校務分掌に位置付けた組織

※ いじめ防止対策推進法第22条に基づく「学校いじめ対策委員会」を支援する組織としても位置付けられています。



日常からの情報連携が、いざというときの行動連携につながります。

学校サポートチームを活用して対応した事例

不登校傾向がある生徒A（男子）たちは、登校すると他の生徒を冷やかしたりからかったりしていた。家庭の協力もあまり得られず、改善が見られない状況が続いていた。 【被害の子供：中学校2年生 男子】

学年主任

「A君たちは、他の生徒たちが真面目に行動すると、冷やかしたりからかったりします。指導はしていますが、家庭の協力があまり得られず、改善が見られません。」

副校長

「学校サポートチームの定例会が近日中にあるので、支援策を検討してもらいましょう。」

スクールソーシャルワーカー

「当該生徒の家庭訪問をして、状況を確認してみます。」

主任児童委員

「A君の母親は、私のかつての同級生だから相談に乗ってみますよ。」

学級担任

「校長先生、A君たちがB君のかばんを蹴飛ばしてからかっていました。彼らの行動はエスカレートしてきています。早急に対応する必要があります。」

校長

「臨時の学校サポートチーム会議を招集しましょう。」

主任児童委員

「A君の母親も、養育に悩んでいました。」

スクールサポーター

「このまま放っておくと、犯罪につながってしまう可能性があります。A君らは万引きで指導したことがあるので私から声を掛け注意してみましょう。」

PTA会長

「でも、B君が仕返しされないか心配です。」

生活指導主任

「学校としてB君を守ることを保護者に伝え、理解を得ておきます。」

学級担任

「私は1年生のときからA君を見ていますが、本当はとても優しい子なのに最近、何かに悩んでいるのか、行為がエスカレートしてしまっているように思うのです。学校としては、今のうちにA君のためにも、厳しく指導をすることも必要と考え、元警察官の方に話をしてもらおうと思っています。もちろんその後のフォローは私たちでいたします。」

母親

「そうですね……。私も最近、手に負えなくなっているので、そういうことも必要なのかもしれませんね。」

学校いじめ対策委員会での協議

学校サポートチーム定例会議での協議

学級担任は、生徒Aらが生徒B（男子）のかばんを蹴飛ばす状況を発見し、校長に報告

学校サポートチームの臨時会議にて対応の検討

学級担任は、家庭訪問をし、生徒Aの母親と面談

各校の工夫や取組を紹介します！

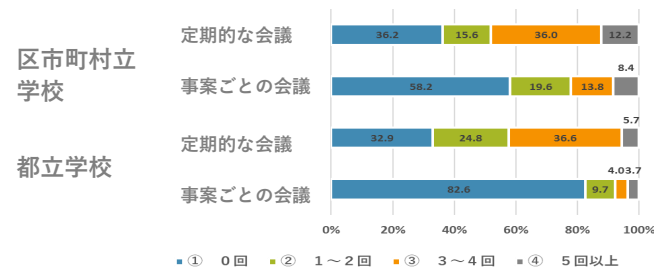
～「令和元年度学校サポートチーム活動状況調査に関する調査」より～
(調査対象 都内全公立学校 期間 平成30年4月1日～平成31年3月31日)



Q1

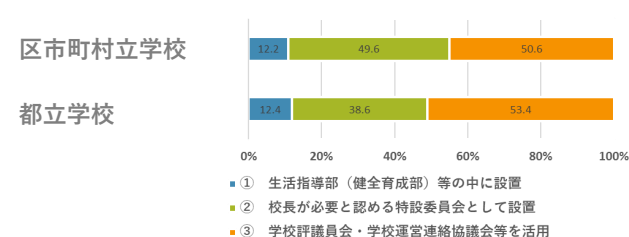
チーム会議の時間を確保したり、メンバーのスケジュールを調整したりするのが難しいです。どうしたらよいでしょうか。

会議の開催回数



85%以上の学校が1回以上のチーム会議を開催しています。

会議の設置方法



既存の組織を活用してチームを設置している学校が多くなっています。

チーム会議を効率的に開催するためには・・・

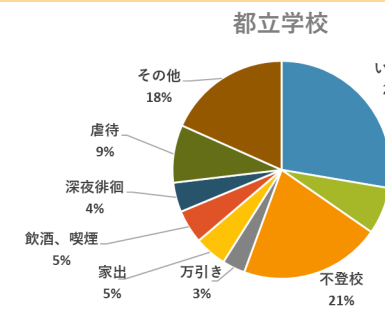
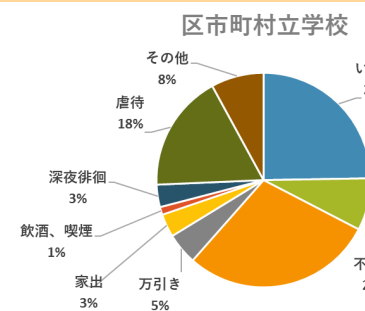
- 年度当初に年間の会議日程を決め、年間計画に位置付けておく。
- その事案に応じた必要なメンバーのみで、チーム会議を即時的に開催する。
- 学校評議員会等の既存の組織を活用して、学校サポートチームを設置する。
- オンライン環境を活用したWeb会議を開催する。



Q3

限られた時間の中で開催しているため、情報共有を行うことはできるのですが、支援方法を検討するまでいきません。何かよい方法はないでしょうか。

会議で取り上げた内容



区市町村立学校、都立学校ともに、会議の内容として「いじめ」「不登校」を取り上げている学校が多くなっています。

チーム会議の内容を充実させるためには・・・

- チーム会議で取り上げる内容を精選し、事前に協議内容を周知しておく。
- 事案ごとに、支援のコーディネート役を決め、チーム会議における支援策の提案や、実際の対応における進行管理等を依頼する。
- 事案ごとの会議のみならず、定例会議を設定し、未然防止の取組を強化する。



Q2

個人情報の取扱いは気を付ける必要があるため、チーム会議で提示する情報の取捨選択が難しいです。どうしたらよいでしょうか。

メンバーに選ばれた割合の多い職種等

※ それぞれの職種等を選んだ学校の割合

区市町村立学校			※
①	民生・児童委員 主任児童委員	81.7%	
②	保護者	61.5%	
③	子ども家庭支援センター職員	56.0%	
④	スクールソーシャルワーカー	54.4%	
⑤	警察職員 スクールサポーター	49.3%	

都立学校			※
①	警察職員 スクールサポーター	61.7%	
②	保護者	61.4%	
③	ユースソーシャルワーカー	16.1%	
④	子ども家庭支援センター職員	15.1%	
⑤	民生・児童委員 主任児童委員	14.1%	

区市町村立では「民生児童委員」が、都立学校では「警察職員」が一番多く選ばれています。

個人情報の取扱いを徹底するためには・・・

- 学校サポートチーム設置要綱に守秘義務の遵守を明記し、委嘱状を交付する。
- 個別事案に関する情報提供は、その支援や指導に必要な範囲に限定する。
- チーム会議の資料は、会議終了後に回収する、Web会議では資料提示にとどめるなど情報管理を徹底する。



学校サポートチームを活用すると・・・

外部の専門家の協力を得て、支援することができます

学校だけでは解決することができない事案について、多角的なアセスメントや、専門家による複合的な視点からの解決策の立案、役割分担が可能になります。

学校の取組の課題を客観的に把握することができます

チーム会議で、自校の健全育成に係る取組状況を振り返ることにより、専門家の視点を取り入れた課題分析が可能になり、真に改善すべき課題を明確にすることができます。

いざというときの行動連携につなげることができます

日常から、チーム会議等で情報連携を行うことにより、事案が起こった際に、各メンバーが自身の関係機関における役割を踏まえた改善策を即時的に考えることができます。

ここがポイント！

年度初めのチーム会議で、メンバーそれぞれの役割を明確にするとともに、全教職員が理解できるようにします。

定例会議として、学校の方針を共有する、ふれあい月間の調査等の結果を分析するなどの機会を計画的に設定します。

日常から、全教職員がメンバーと「顔が見える関係」を構築するとともに、「双方向の関係づくり」を大切にします。